

1. 評価結果概要表

〔認知症対応型共同生活介護用〕
平成 22 年 4 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	0193800034
法人名	株式会社 パシフィックケアサービス
事業所名	グループホーム ゆとりの里三石
所在地	〒059-3233 日高郡新ひだか町三石梟舞344番地の6 (電 話) 0146-34-2834

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年4月5日

【情報提供票より】 (平成22年 2月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 16人, 非常勤 2 人, 常勤換算17.4 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円
その他の経費(月額)	光熱水費 1日 650円 冬期10月~3月燃料費月6,000円
敷 金	有 (円) 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 有りの場合 償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 400 円 昼食 400 円
	夕食 500 円 おやつ 円
	または1日当たり 円

(4) 利用者の概要 (3 月 1 9 日現在)

利用者人数	18 名	男性 9 名	女性 9 名
要介護 1	3 名	要介護 2	7 名
要介護 3	6 名	要介護 4	1 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 85 歳	最低 64 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田クリニック・おまきクリニック・波川歯科・中村薬局
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、国道から少し離れた母体の法人が所有する自然に恵まれた広い敷地に平屋造りが二棟という形で立地している。窓からは、小高い山や海が眺められる。事業所の前には、畑や山羊や羊・鳥骨鶏等鶏を飼っている。玄関を入ると木目の清潔感のある内部に入る。右側に事務所があり、その前が共用スペースと廊下があり、2つのユニットを直線でつないでいる。廊下の両側が居室となっており、利用者の状況を把握し易い造りとなっている。母体の代表者及び管理者が全職員とともに利用者本位の介護を目指している。利用者は自然の中、季節感を感じながら、職員と共に、ゆっくりと流れる時間を安心して穏やかに過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の調査で課題とされた「地域密着型サービスとしての理念」、「評価の意義の理解と活用」、「家族等への報告」、「チームでつくる利用者本位の介護計画」については、事業所全体で改善に取り組みられている。「重度化や終末期に向けた方針の共有」は、更なる取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、全体会議において、評価の意義を周知した後で全員で自己評価を行っている。管理者がまとめているが、改善点については、ユニット会議等で話し合われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 今まで、概ね2ヶ月に一度開催されている。参加メンバーは、家族・地域包括支援センター担当者・自治会長などである。会議において、利用者の状況説明だけでなく、地域における災害対策なども町役場の職員も参加して話し合われることがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりや健康状態については、毎月、家族が面会に来た時に、金銭管理と共に報告している、意見箱より、面会時に直接意見や要望を聞くことが多いので、管理者が全てを把握出来る体制になっており、速やかに対応するようにしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域に行われる運動会・秋祭りなどに積極的に参加している小学校との交流を深めている。また、地域とのつながりでボランティアの受け入れも行っている。地域住民にホームの認識を深めてもらっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」という理念を掲げ、「相手を尊重して受け容れ、気持ちを良くくみ取りながら、そして地域に馴染んで、期待された以上に喜んでもらう姿勢」をつらぬくような介護を心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体の会議や日々の申し送りにおいて、理念に触れ説明し確認している。また、事業所独自に「目標」として掲げた10項目を実践した介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる運動会・秋祭り等には積極的に参加している。小学校との交流を深めている。また、地域との繋がりやボランティアの受け入れも行っている。地域住民に事業所についての認識を深めてもらっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議において評価の意義を周知した後に全員で自己評価を行っている。管理者がまとめているが、改善点については、ユニット会議等で話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで、概ね2ヵ月に一度開催されている。メンバーは、家族・包括支援センター担当者・自治会長などである。会議において、利用者の状況説明だけではなく、地域における災害対策なども町役場の職員も参加して話し合われることもある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域介護センターから、利用者の入居相談を受けたり、事業所から転出した利用者のその後の状況等の情報交換を行ったりと研修への参加などを含め、交流する機会づくりをしている。さらに、地域の防災対策の件で町役場の職員と話し合っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、毎月、家族が面会に来た時に金銭管理と共に報告している。また、毎月、事業所便りを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、家族が参加して意見を表す機会はある。また、家族が来所した際には、管理者や職員が意見を伺い、スタッフ会議において検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今まで、異動はほとんどない。定期的に代表者と管理者とが職員との話し合いをする機会を作っている。異動するスタッフがいる場合にも余裕をもって引き継ぎを行い、スムーズに移行できるように配慮し、利用者へのダメージを極力抑えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、町の保健所職員や調剤薬局の調剤師による勉強会を行ったり、外部研修に参加する機会を設けている。さらに、1週間程の研修にも対応出来る体制になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと連携しており、地域のグループホーム協議会とも研修会等を通じて交流・情報交換をしている。2～3日の派遣実習を実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上でサービスが利用出来るように、入居を希望される方の家族の事業所見学をしてもらい、本人に十分説明し、理解をもらっている。また、施設の変更の場合は、前の施設の介護支援員等と相談しながら介護計画を作成している、体験利用をしてもらう場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式の基本情報により、利用者の習慣・食事の好み等を把握するように努めている。職員は出来るだけ利用者に寄り添い、のんびりとのどかに過ぎゆく時間を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の語りや家族・知人の訪問時に昔の暮らしぶりや趣味などを把握することに努め、出来るだけ希望に添えるように努力している。中には、意欲的にお手伝いしてくれる利用者もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族との関わりの中で要望・意見を聞き出すと共に医療機関との連携の上で、代表者及び管理者を含めたスタッフ全員で話し合い、ケアの見直しを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を3ヶ月毎に評価し、定期的見直しは6ヵ月に一度行っている。この間軽微な変化は、ミニカンファレンスで話し合い対応している。心身の大きな変化が生じた場合は、介護計画の再検討を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院・送迎等を行っている。また、買い物にも職員が同伴している。広い敷地を利用した畑や花壇造りをさらに進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族から希望を聞いた上で、以前のかかりつけ医であっても受診支援をしている。月2回の協力医療機関の訪問診療や訪問看護が受けられる体制は出来ており、利用者に合わせて医療支援が出来るようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、利用者が重度化した場合や終末期における対応について、職員間で話し合い確認している段階で、具体的にはまとまっていない。しかし、管理者は、終末期における対応の指針を定めることの必要性は感じている。	○	重度化や終末期に向けた支援は、今後の事業所の課題であり、また、利用者や家族の関心事のひとつでもある。出来るだけ早い段階で話し合いの機会をつくり、関係者全体の統一を図っていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には、はっきりと丁寧に穏やかな口調で話し掛けている。利用者一人ひとりの尊厳を大切に、常に声を掛けてから支援している。個人情報の管理は鍵のかかる棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々希望に応えることが難しい時もあるが、計画を立てて利用者の要望を出来るだけ叶えるように努力している。事業所では基本的な一日の流れはあるが、職員の都合によるスケジュールはなく、各々の利用者に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者に合わせて、調理・盛り付け・食事・後片付けなどを一緒に行っている。また、利用者の好みも考慮した献立作りをしたり、職員も同席して楽しい雰囲気作りを心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、基本的に午後となっている。利用者一人ひとりの希望やタイミングを見計らって声掛けをし、気持ちよく入浴してもらうよう工夫している。また、拒否する利用者に対しては無理に勧めることなく、時間を変えるなど柔軟な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント記録や日々の関わりの中で、利用者に出合った役割を見つけて、カレンダーめくり・茶碗拭き・洗濯物たたみ・モップ掛けなどを一緒に行っている。各種行事を通じて、皆が楽しめる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的に制限はあるが、日常的に事業所の敷地内に出かけている。畑や花壇があったり、山羊や羊・烏骨鶏等鶏を飼っていたりと戸外に出かける機会を多く作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の閉じこもり防止や黙って外出する場合の対応を会議等で話し合っており、職員間の共通認識もてるようにしている。今までに黙って外出しようとした入居者はいないが、十分注意しながらケアしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立ち会いで避難訓練を実施している。非常用の水・食品・オムツ・毛布等を保管しており、防災への対応を自治体とともに取り組もうとしている。先日、津波注意報発令で、避難を経験している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量及び水分量を記録している。また、個別の嚥下状態を把握しており、刻み食等工夫されている。栄養バランスについては、定期的に包括支援センターの栄養士に指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔に保たれ、窓から柔らかい光が射し込めるように工夫されている。リビングの一角には畳の間があり、そこで洗濯物をたたんだり、横になったり、くつろげるようになっている。また、南向きの窓からは、小高い山と海が眺められるという居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ほとんど使い慣れた家具が使われている。壁には、利用者が写真や絵など好きな物が飾れるようになっている。また、訪問者が来た時にも対応出来る広さは確保されている。		

※  は、重点項目。